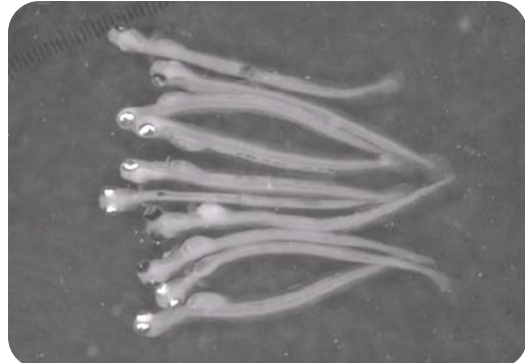


アユが遡上する街、ヨコハマ

H20.1 帷子川でアユが誕生

横浜市の調査により、平成19年12月11日(火)帷子川の和田町付近(保土ヶ谷区)で、卵からふ化したばかりのアユの仔魚(体長5~6mm)141尾が確認されました。アユの誕生の確認は横浜市内では初めてのことで、また、市内の主な河川でアユの遡上が確認されており、特に帷子川では個体数も多く、繁殖時期の10月には婚姻色のアユ(サビアユ)も確認されました。このことから、帷子川ではアユが遡上、産卵し、ふ化したアユが海へ下っていることがわかり、水環境の改善が進んできたことが認められました。



卵黄を持ったアユの仔魚
(調査協力者: 洲澤 譲氏撮影)



アユの仔魚(調査協力者: 洲澤 譲氏撮影)

平成20年1月15日
環境創造局環境科学研究所 記者発表

H20.8 帷子川のアユをもっと上流へ

帷子川の鶴ヶ峰付近では落差部が4箇所あり、この影響を把握するため平成20年7月8日(火)に、環境創造局が落差部の下流で生物調査(魚類)を行ったところ、アユ8尾及びオイカワ17尾が採集されました。しかし用賀下橋の落差工上流では、ほとんどアユを確認できていません。今回の調査を受けて、帷子川の生物生息環境をもっと良くするため、上流まで魚が遡上できるように落差部に魚道の設置を検討します。魚道に関する市民からの関心は強く、この改良により、帷子川のさらに上流域でも元気なアユが泳ぐ姿が見られる日も近づくと考えられます。

平成21年度に帷子川へ円柱形粗石魚道を導入



改良前の落差工 (NO.2 用賀下橋下流)

円柱形粗石
魚道を整備
→
・経済的
・維持管理が容易



改良後の落差工 (NO.2 用賀下橋下流)

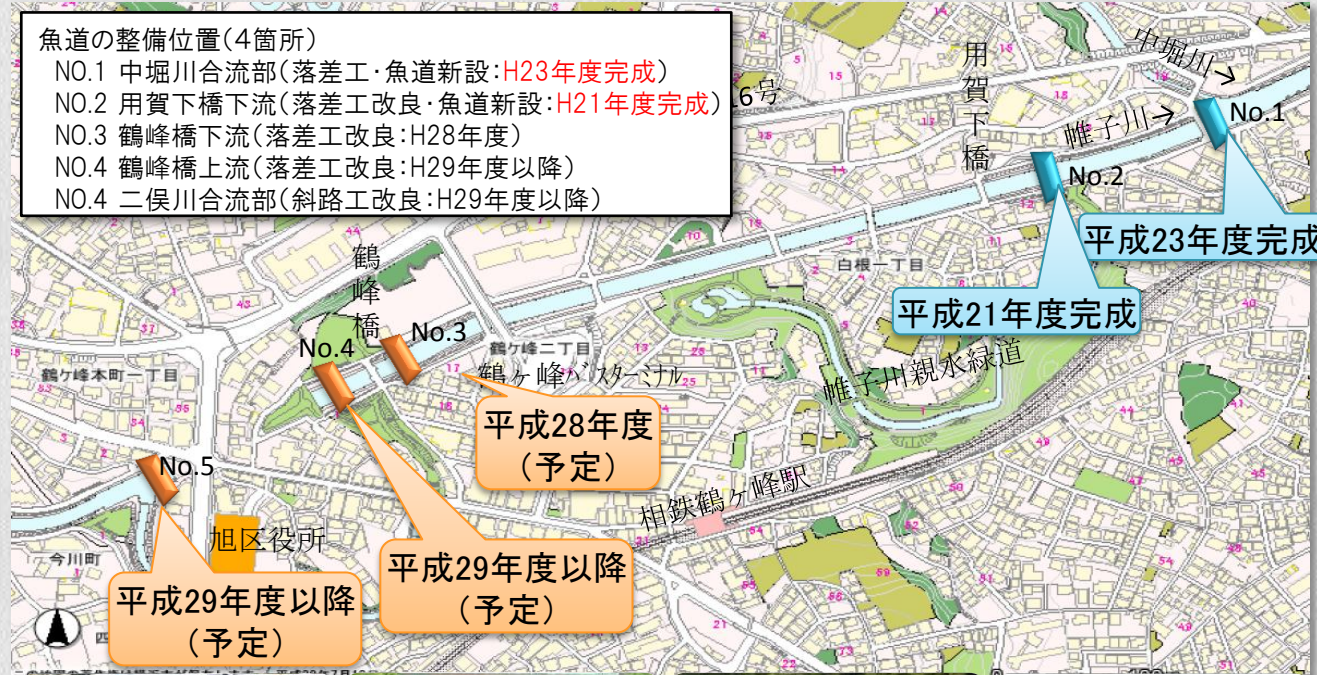
これまでの魚道整備後の状況

平成22年3月 アユの遡上が確認できなかった、用賀下橋の落差工部を優先に、魚道の整備完了
平成23年5月 帷子川改修計画に基づき、中堀川合流部に落差工、根固工、魚道を整備完了
平成23年7月 鶴ヶ峰橋下流部落差工までアユの遡上を確認(帷子川河川生物環境調査を実施)



中堀川合流部上流にて採捕されたアユ

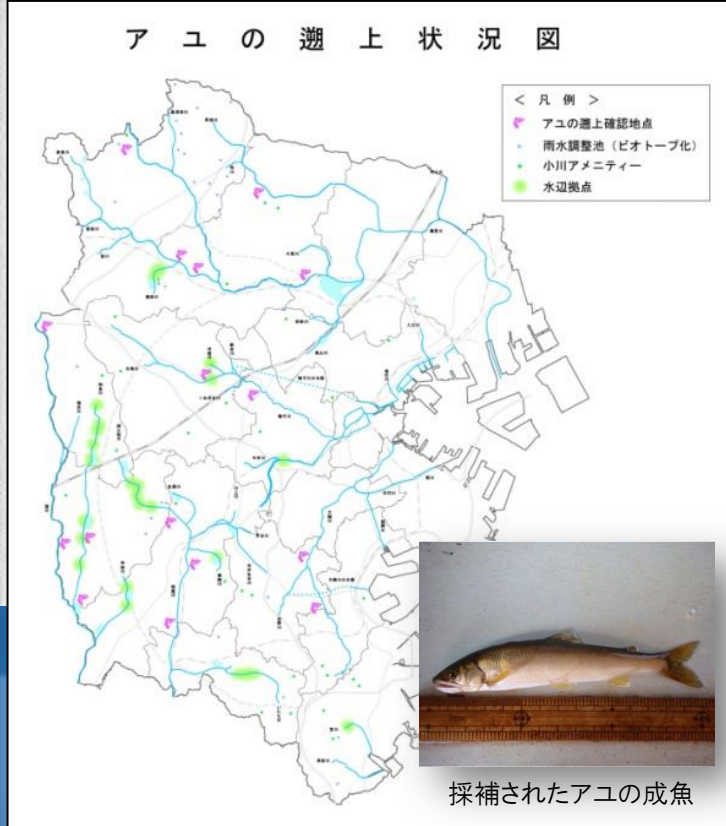
魚道の整備位置(4箇所)
NO.1 中堀川合流部(落差工・魚道新設:H23年度完成)
NO.2 用賀下橋下流(落差工改良・魚道新設:H21年度完成)
NO.3 鶴ヶ峰橋下流(落差工改良:H28年度)
NO.4 鶴ヶ峰橋上流(落差工改良:H29年度以降)
NO.4 二俣川合流部(斜路工改良:H29年度以降)



市内全域で取り組みを進めます!

- H25年度取組
 - 生息域の確認と遡上条件の整理等
 - (1) 主要な河川の上流域や支川での生息状況の確認
 - (2) 帷子川におけるアユの遡上条件の整理
- H26年度取組
 - アクションプランの策定
 - (1) 帷子川における実施計画の策定
 - (2) 落差工の改修や生息環境の整備など事業規模の確認
 - (3) 他河川への展開を検討

- アユは河川環境の指標として最適です。
- 市民に姿が覚えられている魚なので、識別しやすい特徴があります。
 - 生息状況が確認しやすい魚です。石についた川藻を食べ、食べた跡(ハミ跡)を残す魚です。
 - 海から川へ遡上しますので生息域が広い魚です。
 - 本市の生物指標の「きれいな」水域の指標種です。(横浜市水と緑の基本計画)



採捕されたアユの成魚